

昭和六一年(一九八六)

10・24 民俗班調査研究会(河上委員他)

第2回福生市史を学ぶ市民講座

(一) 昔の旅(伊勢道中日記)

滝沢 博氏

(二) 真福寺文書と高野山

久保田昌希氏

* 滝沢氏は青梅に残る日記帳から幕末・明治の伊勢・高野山への庶民の旅を紹介された。

* 久保田氏は熊川の真福寺において新たに発見された北条氏照文書写の検討、高野山との関わりなどを紹介された。

10・29 屋敷神調査打合せ(民俗班8名)

10・30 中世資料整理(大久保調査員)

11・2 資料編検討会(久保田委員、大久保・平野・浅倉・渡・田島調査員)

11・5 立川愛雄氏「歴史手帖」創刊、最近号等提供 笹本正夫家資料借用

11・10 4号編集打合せ(新井委員)

11・12 墓標調査整理(小松調査員)

11・13 資料編原稿整理(久保田委員、大

久保・遠藤・平野調査員)

11・14 行政資料の提供(中央図書館)

11・19 資料編の印刷、精興社に決る。



昭和六一年十月二十四日、
昭和六二年五月十八日

11・22、23 資料編宿泊編集(延22名)

11・23、24 近世市内調査(北原委員他)

11・25 第30回編集専門委員会議

11・26 中世編入稿

12・1 熊牛町会報コピー(1号、38号)

12・5 寺社編校正(駒沢大学史学研究室にて)

12・6 寺社編校正(遠藤・柏倉調査員)

12・7 寺社編校正(久保田委員、他6名)

12・14 近世市内調査(北原委員他)

12・12 民俗班調査研究会

12・14 寺社編校正(久保田委員、他4名)

12・17 墓石調査整理(小松調査員)

12・18 熊川神社調査(遠藤調査員)

12・20 墓標補充調査(小松調査員)

12・24 近世市内調査(北原委員)

中世班打合せ会(久保田委員、大久保・小松・遠藤調査員)

12・25 近世市内調査(北原委員他)

12・26 民俗調査カード整理(佐野調査員)

昭和六二年(一九八七)

1・6 近世市内調査(北原委員、他2名)

1・7 近世市内調査(北原委員、他2名)

1・13 第31回編集専門委員会議

事業計画 研究誌4号など *会議終了後、各部門の調査員も参加して交流会(15名参加)

1・25 近世市内調査(北原委員他)

2・10 屋敷神調査打合せ(民俗班5名)

2・12 内出文書校正(遠藤調査員)

2・14 資料編集中校正・口絵撮影

2・15 (久保田委員、大久保・平野・浅倉・小松調査員、加藤哲氏)

内出文書校正(遠藤・栗野調査

員)

倉・小松調査員、加藤哲氏)

2・15 内出文書校正(遠藤・栗野調査

員)

員)

2・19 第6回編さん委員会議

2・21 4号編集(新井委員)

2・27 資料編校正(久保田委員、他3名)

3・18 井上誠三氏より史料提供*不要になつた襖から下張りの和紙(文

書)をはがしてくれたいもの。

3・27 研究視察(新潟県村上市)

4・2 近世資料編打合せ・史料筆字指導

(北原委員)

4・7 第32回編集専門委員会議

5号編集 事業計画 市民講座

4・12 都知事選挙・都議補欠選挙

4・15 絵図資料利用依頼(国会図書館)

4・26 市議会議員選挙

5・7 埋蔵文化財保存場所移転

5・14 市議会より新編さん委員に次の方

を委嘱。(敬称略)

村尾 栄次 村野和一郎

在原 博 斎藤 巽

5・15 八並代議士遺品撮影

5・18 森田浩一写真資料等の提供

編集後記



◇市史編さん事業もだいぶ軌道にのり、ここに『みずくらいど』・第五号をお届けいたします。五号の発行ともなれば、市民の方の反響もだいぶでてきたようです。先日ある市民の方より次のような話がありました。「福生から他所へ嫁いだ娘に、『みずくらいど』を毎号かかさずに送り、故郷を大切に思ってもらうようにしています。」との話で、娘を思う親の気持とともに市史編さんに寄せる期待に、思わず身の引締まる想いでした。また、『みずくらいど』を五部・十部と購入し、友人・知己に配っているところもありました。自分の住む地域の歴史と文化を知ってもらい、そこに生きる人たちの息吹きを感じてもらいたいとのことでした。こうした市民の方々の期待にこたえ、福生の市民からの他地域へのメッセージの一つにこの『みずくらいど』がなるよう編集も一工夫と考えます。

◇今号は、戦中・戦後を通して福生市民の生活にいやおうなく大きな影響をもった基地をとりあげてみました。市史のなかで、どう基地をとりあげるかは、なかなか意見のあるところでしょうが、とにかく基地と福生のかかわりについて、さまざまな体験また貴重な資料などがあるのではないでしょう。こうした資料がありましたら、ぜひ市史編さん室までお寄せ下さるようお願いいたします。

◇いま生涯学習ということが、成熟社会に向かうなかでよくいわれます。つまり、「生きることは、学ぶこと」ということになりましょう。そこで、市民の方々の生涯学習の場の一つとして、「福生市史を学ぶ市民講座」を大いに活用いただけたらと思います。この講座も三回を数え、これからも充実させていこうと考えています。

◇中・高等学校の社会科・歴史では、地域学習が行なわれています。ぜひ学校や家庭で『みずくらいど』をご活用下さい。

◇編集担当は河上一雄・久保田昌希。

(河上記)

みずくらいど 5号 (福生市史研究)

昭和62年(1987)8月10日 発行

編集 福生市史編さん委員会

発行 ^{ふっ}福 ^き生 市

〒197 東京都福生市本町5番地

電話 0425(51)1511

印刷 株式会社 精興社

〒198 東京都青梅市根ヶ布1-385番地
